

内科

腸内細菌と糖尿病の関係について

さまざまな全身の疾患が腸内細菌と関係していることを、これまでも書いてきました。今回も再び糖尿病を取り上げます。高血糖や多量の脂質の摂取で腸管粘膜の炎症が起こりやすくなり、腸管のバリア機能が低下し、腸内細菌由来の物質が血中に侵入すると、種々の臓器の炎症が起こり、血糖のコントロールが悪化しま

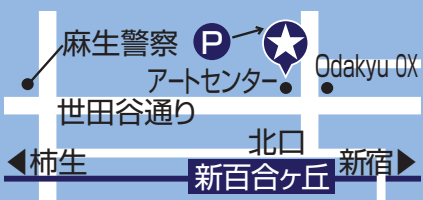
す。一方、経口摂取した食物繊維は腸内細菌によって分解され、酢酸・プロピオン酸・酪酸などの短鎖脂肪酸となり、交感神経節や白色脂肪組織に存在する脂肪酸の受容体に働きかけて、エネルギー消費量の増加や、脂肪組織への脂肪の蓄積を抑制し、血糖コントロールを改善します。以前述べたアツカーマンシア菌をヒトに投与して、



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>

インスリン抵抗性の改善、体脂肪量低下をもたらしたというベルギーでの研究もあり、腸内細菌を利用した糖尿病の治療法の進歩が期待されます。